



☀️	なし
----	----

食品団地	8月度は県内外共に前年並みの商況。一部で巨大地震注意報による防災関連商品については、前年より倍増する商況であった。
テントシート	原材料高騰分のスムーズな価格転嫁が厳しい状況が続くと思われる。イベント関連事業については、コロナ禍前に回復したように思う。
木製品素材生産	8月は、お盆休みと台風の影響もあり出材量が減少している。丸太価格については、依然として製品の動きが悪く、全体的に弱含みで推移している状況。今後の見通しもあまり良くないが、秋の需要回復に期待。
製紙(家庭紙)	紙製品全体では、販売量・販売金額・生産量ともに昨年同月比で上回った。その中で、家庭紙、工業用雑種紙の動きが良くなっている。
製紙(手すき和紙)	ほぼ前年並みの横ばい状態が続いており、少し良くなったと思えば継続が続かず不安定な状態のままである。
コンクリート製品	対前年同月比63.8%。四半期の公共事業の発注が少な影響と思われる。来月から通常に戻る見込み。
刃物製造	価格の改定(値上げ)の関係か、若干受注が少なくなってきたように感じられる。しかしながら受注残はまだ多く早期の納品を生産者に促していき、売上を伸ばしていきたい。
機械団地	原材料価格や人件費の高騰に見合う収益の確保が難しい中で、老朽設備の改修等により生産性向上に取組む事業所がある。団地内の業況に特段の変化は見られない。
船舶製造	受注・売上ともに引き続き順調。
珊瑚装飾品製造	8月度の取引額は前年同月比53%となり、4カ月連続で前年を下回った。
青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量96%・キロ単価108%、果実:数量95%・キロ単価115%。キロ単価の昨年対比は野菜・果実ともに7月よりも大幅に上昇。販売高の面からみると、7月よりは昨年対比で回復しているものの、数量的よりも単価の上昇によるものと考えられる。
生鮮魚介卸売	地震とゆっくりの台風がお盆の時期に重なり、かなり売上に影響があった。カツオは順調に入荷している。
各種小売(土佐市)	8月の2大祭りの「宇佐港まつり」は、南海トラフ臨時情報発令のため11/9(土)に延期になったものの、「大網まつり」は開催され、多くの人で賑わい市内にも活気が戻った。
中古自動車小売	先月同様の状況が続いており、収益確保に苦戦している。これから繁忙期に備えての仕入れが厳しくなることが予想される。
商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の92.5%(▲1,960台)、料金収入は前年の97.4%(▲261千円)となった。第71回よさこい祭りが8/9(金)～8/12(月)まで開催されたが、8日に南海トラフ地震への注意をよびかける臨時情報の影響もあり、よさこい祭振興会の調査結果では人出が約2割減となった。また、台風10号の影響により30日は商店街のほとんどの店舗が臨時休業となり、8月の商店街への来街者は少なかった。

商店街(四万十市)	土曜夜市は天気も良く盛況だった。ボランティアとして、中村高校の生徒も多数協力してくれた。月末の花火大会は台風の影響もあり9/7(土)に延期となった。
旅行業	組合クーポン前年同月対比81%、全旅クーポン合算合計前年同月対比101%。8月の地震警戒情報の影響を受け、宿泊売上が大幅に減少している。
IT事業	売上は前年比で減少した。前月は増加していたため、今月も継続的な増加を期待していたが、本格的な回復にはまだ時間がかかりそうだ。大型案件は好調時に比べて少ない状況が続いている。来月以降は、最新技術や情報に関する教育・研修、勉強会を通じて、組合員全体のスキル向上を図るなど、本格的な単価アップを目指す取組みが急務であると考えられる。
クリーニング	売上は単価アップと点数減で相殺され、ほぼ横ばい。エネルギー価格・資材価格上昇は続いており、価格転嫁は頻繁に行えないため、収益状況はやや減少。労働力不足は常態化しており、労働環境改善のための夏季期間の暑さ対策(稼働時間変更等)も検討材料。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比240.3%となった。高知中央地区が303%、香長地区が282%と大幅に増加した。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:104.3%、輸送回数:98.2%、実働率:50.4%。国土交通省より、高知県でも「日本版ライドシェア」を導入してほしいとの要請を受け、高知県7つの交通圏の中で高知市を含む6交通圏でライドシェアが開始すると思われる。この開始によって、一般のライドシェアを阻止しようとしている。
酒類製造	ほぼ前年水準で数カ月横ばい状態である。消費の回復は依然厳しい状況。好調なインバウンドに対する対応が不足していると思われる。

製材	エネルギー・資材等の価格上昇が顕著となっており、収益面は厳しい状況。
建具	別注建具・家具ともに大変仕事量が少なかった。かなり厳しい状況。
印刷	5月～7月の3カ月間は好調を維持していたが徐々に売上減少、設備操業度低下という厳しい結果となった。県外需要は好調を維持しているが、一部の業界で落ち込みがあった。県内需要は全般に低調。また、台風等の影響もあり売上が次月に持ち越した影響もある。
生コンクリート製造	8月度の全組合員の出荷量は、対前年比 95.8 %であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比88.4 %で 8月単月及び4月からの累計は若干増加傾向にある。地域的には、東部・嶺北及び中央地区の一部が対前年比増加傾向を示しているが、中部・高幡・幡多地区が減少傾向にある。特に幡多地区の減少傾向が顕著である。
卸団地	お盆時期の地震注意及び月末の台風の影響により外食・観光の業界は全体的に大きくマイナスになった。原材料の値上げ、油や電気代値上げがあり、十分に販売価格に転嫁出来ず、利益が圧迫されている。暑さのせいもあり、お客様の動きが悪い。
電気機械器具小売	8月度は全商品平均で前年比98%。省エネタイプエアコン前年比102%、大画面テレビ前年比86%だった。
ガソリンスタンド	8月の原油価格は前半下落気味だが、後半持ち直しが見えた。補助金があるため、動きは微妙である。この1年の市況はほとんど変化がなかったが、人件費・水道光熱費、その他の経費の値上がりで利益は圧迫されており、仕切り価格に関係なく、値上げが必要となった。補助金は8月末で16.6円/Lとかなり少なくなってきた。補助金の交付は12月までということに変わりは無い。
商店街(安芸市)	8/24(土)に商い甲子園大会を開催。7校13チーム約100名の高校生が参加。今年のテーマは「再発見」とし、若い視点と感性で地域の魅力、商品の魅力などを再発見し、多様な販売活動を展開。今大会は、高知商業高校が初優勝した。今年は安芸市制70周年記念事業として、商い甲子園を応援する「安芸本町商店街スタンプラリー」を実施。来場者の皆様にたくさんのお買い物をして大会を盛り上げていただいた。
旅館・ホテル	前年同月は特別に需要が高く、今年はある意味通常ベースに戻る見込みであったが、8/8(木)の南海トラフ地震臨時情報の発表以降キャンセルが続出した。9～13日頃まではキャンセル後に新規予約が入ってきたが、売価を下げるを得ず収益は下がった。旅行先として高知県が危険という認識が広がることを懸念している。
飲食店	当月の売上高は前月、前々月に引き続き4カ月連続で前年同月を下回った。コロナ禍以前との売上比較は約8～9割。8月は予約状況等も良く業界全体が前年度の売上を1割近く上回る見込みだったが、南海トラフ地震臨時情報と台風10号の影響が大きく、結局終わってみれば前年度を下回る結果となった。前年度同月に比べ、さらに物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費等、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
一般土木建築工事	令和6年8月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比79.5%、前年同月比95.8%、前年同月累計比88.4%。そのうち、共同販売事業に係る出荷量は69424.05m ³ と全体の33.76%と低調。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、主に賃金アップの原資としてm ³ 当り1,000円の値上げを5月契約分より実施。また、小型車搬送についても値上げ実施。値上げ分の積算単価反映は、経済調査会のみ9月実施。10月に物価調査会が追従する形に。また、高知市の組合再生については進行中であるが、具体的な進展は未だ見えない状況。
一般貨物自動車運送	荷動きはお盆の連休が長期になる業種が多かったため昨年と比べても良くなったとは言えない。燃料価格は先月に続き2円程度の値下げとなったが、それでも高値であることには変わりなく、売上が伸び悩む中で収益も圧迫する状況が続いている。